

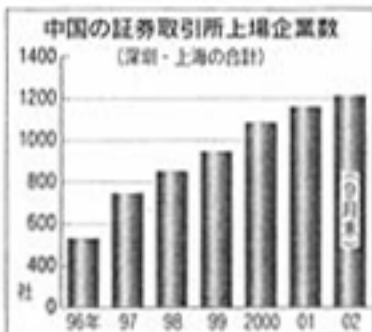
日本のベンチャーキャピタル（VC）各社が中国進出を急いでいる。経済成長を背景に新興企業が相次ぎ誕生し、ベンチャー投資で高い利回りが期待できるからだ。株式相場低迷で国内での投資環境が冷え込むなか、中国企業への出資や拠点を開設する動きが活発になっている。

## 海亀派に投資

「米国留学から戻った力して投資案件を克服する者らの間で起業の機運が高まり、投資機会が急拡大している」。VC最大手、ジャフコの伊牟田均専務はこう指摘する。同社は中国での投資対象としたフアランド（投資余力一億）から二〇一三〇%を振り向ける。投資先十四社のうち、この半年で六社を中国に「帯同した」。独立系VC企業が集積する中間村地に設けた。中国のパソ

# 国内VC 中国に食指

起業ラッシュで高利回り期待



## 資金回収・経営関与…手探り続く

口和孝代表はこう話す。近々北京市も関連するベンチャー支援組織の中、大手のエヌ・アイ・エフベンチャーは中堅・新規事業育成センターと中小企業の中国進出を支援する投資ファンド（基金）を設立を計画中。中提、年内には自前の拠点を開設する。中国の成長を背景に、日本の投資先企業の成長を後押しし、部品供給などでヒシ

百社強となり、五年前に比べ六割以上増えた。世界貿易機関（WTO）加盟に加え、共産党大会でめられるなどベンチャー投資に追い風が吹く。起業が一段と活発になり、優秀な人材も集まりやすくなる」（伊牟田専務）と期待を寄せる。

ジャフコもこれまで中国で事業展開する七社に

グループの今村英明は「アイス・ブレイクメントは中国では未上場企業の大半が日本の有限会社に相当する形態をとる。出資しても経営に関与しにくく、企業統治がうまく機能しない懸念がある。株式会社でもストックオプション（株式購入権）の付与や種類株の発行は認められず、増資も三年間利益を計上し、配当していることが条件だ。」

ただ中国政府も手をこまぬいているわけではない。昨年、外資系VCの進出を促進する法律を暫定的に制定した。現在、日米欧など海外VCから要望を聞き取り、使い勝手の改善を急いでいる。

「本格的にベンチャー投資を呼び込むには法制度や新興企業向け市場などに未整備な点が残る」。

「本格的にベンチャー投資を呼び込むには法制度や新興企業向け市場などに未整備な点が残る」。

「本格的にベンチャー投資を呼び込むには法制度や新興企業向け市場などに未整備な点が残る」。

「本格的にベンチャー投資を呼び込むには法制度や新興企業向け市場などに未整備な点が残る」。

待たれる法整備

待たれる法整備

待たれる法整備

待たれる法整備